

第 52 回佐賀県環境審議会概要

日 時：令和 7 年 12 月 24 日（水） 14:00～15:30

場 所：グランデはがくれ フラワーホール C

出席者：（委員）角縁会長、伊藤委員、江口委員、樺澤委員、梶山委員、片渕委員、木上委員、木下委員、瀬戸口委員、多々良委員、田中委員、友田委員、平野委員、福元委員、山口委員

（事務局）県民環境部：諸岡部長

循環型社会推進課：佐々木課長、山田副課長、杉田係長、草場係長、
山下係長、永島主査

有明海再生・環境課：安田副課長、北原主査

○議題「第 6 次佐賀県廃棄物処理計画（案）」について

・事務局から事前配付資料により説明を行った。

＜質疑等＞

委 員：太陽光パネルについては、分別がしにくいと聞いている。県内で分別等の処理に対応できる事業者はあるのか。

事 務 局：県内では、対応できる事業者が 3 社ある。持ち込まれた太陽光パネルは、ガラスや金属類等に選別され、それぞれ資源としてリサイクルされる。

委 員：一般廃棄物であれば、目標値は減らしていくところだが、産業廃棄物については、人口の減少もある中、なぜ増加するという推計になるのか。建設業界が活発になるなど、具体的に何が起こると予想されるのか。

事 務 局：各業種について、活動量指標から原単位を算出し、数量を掛けることで推計している。なお、産業廃棄物の発生量が多い建設業界などの活動量が過去 5 年増加しており、そのことが推計結果に繋がっていると考えられる。

委 員：産業廃棄物の目標設定については、全国の動向を基にしており、佐賀県独自の状況は加味していないということか。

事 務 局：県独自の状況を加味した推計値と、国の目標設定の方法で算出した目標値を比較し、厳しい目標値となる国の目標設定の方法を採用した。

委 員：高齢の方が家財を片付ける際に連絡をもらって、まだ活用できる品、例えば着物の古布をいただき、バッグとして再生利用する活動をしている。計画に、

このようなアップサイクルについても記載してほしい。

委 員：幼児教育の現場では、環境意識を高めるため、清掃工場から廃品を入手し、工作の材料として利用する取組を行っている。アップサイクルに加え、廃品を価値として、住民が入手しやすい環境が教育現場にとって大切である。環境学習がより進むと考えるため、この計画にアップサイクルについての記述がほしい。

事 務 局：計画への記載を検討する。

委 員：白石町は九州で唯一、コウノトリが抱卵し子育てをする地域として有名だが、付近で網が投棄されており、その網をコウノトリが巣へ運びこんでいる。その巣のコウノトリがカラスに追い立てられ、ヒナの足に網が絡った結果、落下して死んでしまうということがあった。網の適正処理について、行政からも指導をお願いしたい。

事 務 局：一般廃棄物の不適正処理の可能性もあるため、白石町に情報共有する。

委 員：不法投棄に対する厳罰化や公表制度の導入など、県独自の施策を検討しているだけだとありがたい。

事 務 局：令和8年2月県議会に提案予定の条例では、監視やモニタリングの強化について記載している。

委 員：意見としてだが、ゴミを分別せずに出すことで、収集回収されず、そのまま放置されていることがある。ゴミ分別やリサイクルの重要性について、多言語にも対応した周知広報を検討してもらいたい。

事 務 局：計画への記載を検討する。

委 員：リチウムイオン電池については、火災の危険性についての啓発と同時に、安全に処分する方法についても、周知してほしい。

事 務 局：今後、市町や事業者との連携を強化し、分別収集に協力いただけるよう周知広報などに取り組みたい。

委 員：下水道管については、老朽化が問題になっているが、し尿の項目に課題として記載する必要はないのか。

事 務 局：下水道管の整備については、本計画ではなく、下水道計画等において、課題に挙げるものと考える。県下水道課に、下水道計画等での記載を確認とともに、ご意見をお伝えする。